

主体的に学ぶ力を育成する教育課程の改善 ～定期テストから単元テストへ～



市川市立第二中学校校長 石田 清彦

1 定期テストの廃止と単元テストの導入

本校では、今年度より中間・期末の定期テストを止め、学習内容のまとまりごとに行う単元テストへ移行した。

これは、自己調整力を高め、主体的に学ぶ力を育成するとともに、指導と評価の一体化の充実を図り、学力向上を目指すためである。

本来テストは、生徒が「自分の中で学力が定着しているかどうか」を確かめるためのものであり、その方法は「定期」である必要はない。単元テストへの移行によって、教員は生徒の理解度を以前よりもつかめるようになり、その後の指導・支援の充実につながれる。そして、生徒にとっては、能動的な学習を促し、日々の学習習慣を身に付け、学力向上につながると考える。

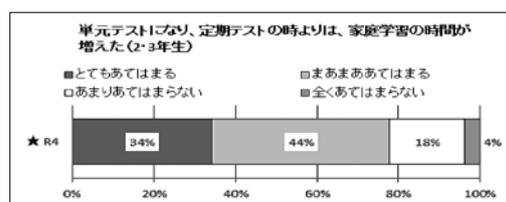
実施にあたっては、学年統一で行い、実施回数や実施日は、各教科で設定する。月曜日の実施を基本として、実施時間は教科の要望で設定する。50分なら1単位時間で1教科、20分なら2教科行うこととしている。

2 単元テスト導入の効果

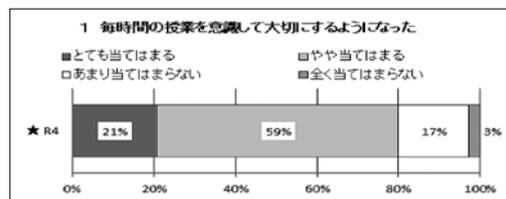
単元テスト導入後（3・6か月後）に生徒アンケートを行い、変容等を確認した。

その結果、図1のように78%の生徒が「単元テストになって、定期テストの時よりも家庭学習の時間が増えた」と答えており、図2のように80%の生徒が、毎時間の授業を意識して大切にするようになったと答えている。このことから、単元テストの導入は、生徒が

学習習慣を身に付け、主体的に学ぶ力を高める上で効果があると考えられる。



【図1】



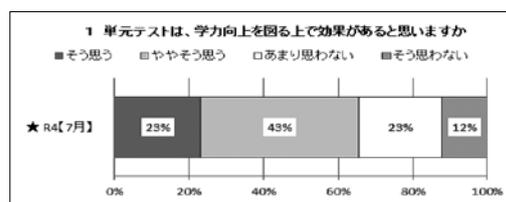
【図2】

また、生徒からは次のような意見があった。

- 単元テストだと、継続的に学習を進めることができる。
- 単元テストになったことで、意識して勉強するようになった。
- 単元テストでは苦手な教科で高い点数を取ることができた。

単元テストは範囲が狭いため勉強しやすく、今まで以上に高い点数が取りやすくなる。このことによって達成感が得られやすくなり、自己肯定感が高まって、次の意欲へとつながることも期待できるのである。

また保護者についても、学校評価（7月）の結果（図3）から、6割以上が単元テストによる学力向上に期待していることが分かった。



【図3】

一方教員にとっても、単元テストは「早め

に何が出来て、何が出来ないのかが分かって良い」「一人一人の学力に分けた対応ができる」などの効果が見られている。

3 単元テストの導入に係る課題

単元テストへの移行は、これまで当たり前だったことを見直すことであり、大きなエネルギーが必要である。

特に生徒や保護者の理解を得ることは重要であり、生徒アンケートや学校評価では、次のような課題が指摘されている。

- 定期テスト前の方が勉強に集中できた。
- 定期テストの方が、モチベーションが高くなる。
- 単元テストは頻繁にあり、部活動の停止期間もなくなって、負担が増えた。

これらの課題については、学校だよりを活用して、学校の考え方を丁寧に説明することとした。例えば、定期テストの方がモチベーションが高くなるという指摘については、テストの回数を頻繁に重ねる単元テストの方が、学習意欲を維持できること、そしてそのことによって学習習慣が身に付くこと、さらに毎週のテストによって、生徒一人一人の日々の努力の過程も評価できることを説明した。学校だよりは適宜発行しており、単元テストについては、8回にわたり説明している。

また、実施に向けた計画や調整でも難しい面はある。単元テストは、基本的に月曜日を実施日としているが、テストを行った時間は授業ができなくなる。このため、授業時数の不足が生じないように調整を行わなければならない。また、教職員にとっても、テストの作成・採点の機会が増え、業務量の面では負担が増えている。このため採点支援ソフトを導入して、負担の軽減を図っている。

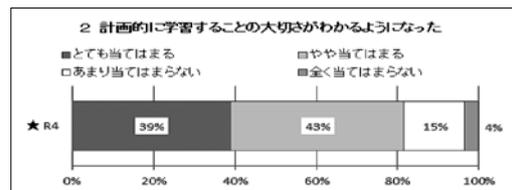
教職員にとっても「楽」であった定期テストを止め、新たな取組を進めるのは、子供た

ちに必要な資質・能力を身に付けさせ、「生きる力」を育むために必要だからであり、その取組は、子供たちのために頑張ろうとする本校教職員の前向きな姿勢に支えられている。

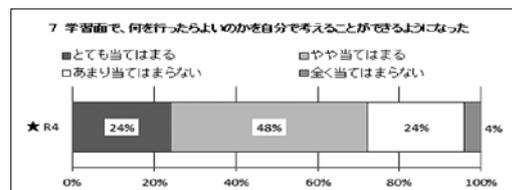
4 今後の取組

平成28年度の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では、生徒が自己調整しながら学習を進めていくことができるように指導することが重要であると言っている。

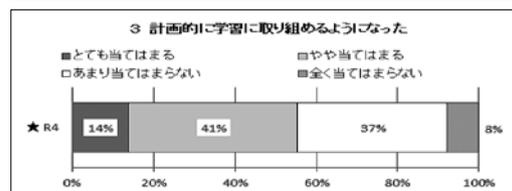
生徒アンケートでは、単元テストの導入によって、80%以上の生徒が計画的に学習することの大切さがわかったと答えており（図4）、70%以上の生徒が学習面で何を行ったら良いか自分で考えられるようになったと答えている（図5）。しかし、実際に計画的に学習に取り組めるようになった生徒は50%あまりであり（図6）、自分でスケジュール管理ができず、学習計画を立てられない生徒は、結果も思わしくない様子が見られている。



【図4】



【図5】



【図6】

今後は、単元テストの継続によって、自己調整しながら学習を進める力の育成を図り、さらなる学力の向上につなげていきたい。